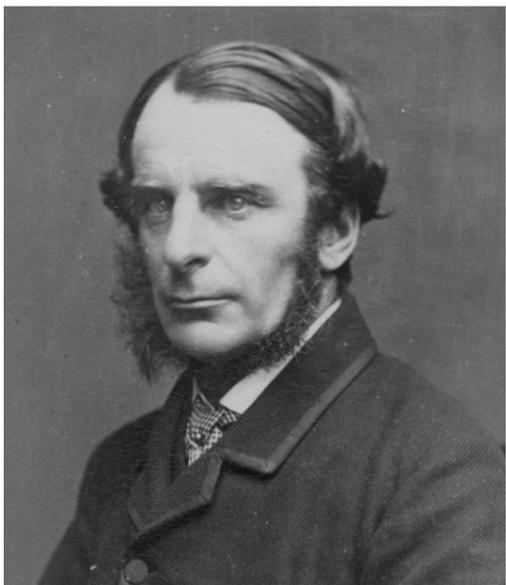


科学と信仰の止揚

基督教友愛新聞

発行所：
白十字キリスト教
社会主義研究会
(http://www.ichtus.net/css)
発行人：
倉井 香茅哉 (独立系研究者)

C. キングズリー、産業革命と進化論を受容した英国教会の聖職者



写真：1860年代のC. キングズリー
(c) National Portrait Gallery, London

今号では、前号につづき、一九世紀イギリスにおけるキリスト教社会主義運動の動向を紹介したい。今回の主役は、英国教会の聖職者であり、小説家としても活躍していたチャールズ・キングズリーである。

一八四八年、フランスで二月革命が起こった年、キングズリーは、聖職者のF. D. モーリスや弁護士J. M. ラドロと出会った。すべてのはじまりは、実際にパリで革命を目撃したラドロが、いまだ一面識しかなかったモーリスに手紙を書き送ったことである。当時、リンカンズ・イン法学院のチャプレン

として「主の祈り」についての説教を担当していたモーリスは、ラドロの筆致に触発され、イギリスの「政治的革新」を回避するために「神学的改良」が必要であると説くようになった。同年四月、報道で誇張されたチャーティスト運動の過激性を危惧したキングズリーが、モーリスの

家を訪ねた。その日、モーリスは風邪で寝込んでいたが、引き合わされたキングズリーとラドロは、二人でチャーティストの集会を見物に出かけた。その後、夜通し議論を交わした三人は、労働者のためのジャーナルの発行を決意する。これが、英国におけるキリスト教社会主義運動の出発点である。同年五月にラドロとモーリスが創刊した『人民のための政治』には、キングズリーも積極的に寄稿している。

産業構造、及び宗教共同体の変化をファンタジー小説に結実させた作家

一方、キングズリーには、ヴィクトリア朝の英国を代表する作家としての一面もあった。なかでも、『水の子(The water babies)』(一八六三年)は、ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』(一八六五年)、ジョージ・マクドナルドの『北風のうしろの国』(一八七一年)と並んで、イギリスのファンタジー史に残る記念碑的な作品とされている。また、キングズリーは、『種の起原』(一八五九年)を著したチャールズ・ダーウィンと親交があり、進化論を積極的に支持したばかりでなく、前述の『水の子』の

構想に採り入れた。すべての生物は神によって創造されたという神学的な世界観を否定し、自然淘汰による進化を実証したダーウィンの学説は、当時の宗教界を大きく動揺させた。そんな中、キングズリーの創作における態度は聖職者として異例といえるかもしれない。この小説を特長づける教訓的な語り、あるいは「魂の進化」(spiritual evolution)といった理論、さらには、主人公のトム

大分県竹田市にて歴史探訪

「隠しキリシタン」の里として知られる伝統的な城下町。瀧廉太郎作曲「荒城の月」の故郷を流れる水の音に癒された。

三月一七日(金)一翻天皇の庇護を受けた八日(土)に大分県竹田市を訪ねた。市内で開催された「荒城の月短歌大会」に参加するためである。昨年四月の熊本・大地震の影響のため、熊本の空港からJRの直通列車はなくなり、バスで迂回経路を辿った。道中、疲労はあったが、宿の食事が美味しかった。

二日目の午前中は、岡城跡へ向かった。伝承によれば、源頼朝に逐われた弟・義経を迎えるために築城されたという。以後、南北朝の時代、後醍醐天皇の庇護を受けた八日(土)に大分県竹田市を訪ねた。市内で開催された「荒城の月短歌大会」に参加するためである。昨年四月の熊本・大地震の影響のため、熊本の空港からJRの直通列車はなくなり、バスで迂回経路を辿った。道中、疲労はあったが、宿の食事が美味しかった。

二日目の午前中は、岡城跡へ向かった。伝承によれば、源頼朝に逐われた弟・義経を迎えるために築城されたという。以後、南北朝の時代、後醍醐天皇の庇護を受けた八日(土)に大分県竹田市を訪ねた。市内で開催された「荒城の月短歌大会」に参加するためである。昨年四月の熊本・大地震の影響のため、熊本の空港からJRの直通列車はなくなり、バスで迂回経路を辿った。道中、疲労はあったが、宿の食事が美味しかった。

天帳院日記

高校時代、芥川龍之介の「芸術至上主義」に傾倒していた。外部世界の事象など、創作のための素材に他ならないとさえ考えた。そんな僕が政治・社会と対峙したのは、二〇〇一年九月一日の米同時多発テロ事件がきっかけである。その後、二〇〇三年にイラク戦争が開戦し、自衛隊の海外派遣をめぐる議論が喚起された。二〇〇五年、初めて文芸誌の新人賞に応募した長篇小説「カワイ子ちゃん内閣」には、当時の政治状況を風刺するニュアンスを込めた。

対する「救済」が冷水による浄化として示されていることなど、進化論とキリスト教信仰の調和が試みられていたといえる。

現在、キングズリーの小説は広く読まれているとは言いがたい。しかしながら、しばしば「ファンタジー黄金時代」と呼ばれる一八六〇年代のイギリスにおいては重要な地位を占めていた。また、初期のキリスト教社会主義運動を領導した人物のうちに彼のような小説家が含まれていた、という事実は、もっぱら政治・社会運動の文脈で理解されてきたキリスト教社会主義運動の文化的な位相を映し出している。

【参考文献】
(一) 関正勝「イギリスにおける「神の国」の展開——キリスト教社会主義運動の中で——」、『キリスト教』第二四号(立教大学キリスト教学会、一九八三年一月)
(二) 中川雄一郎「労働者生産協同組合——キリスト教社会主義運動の開始——」、『協同の発見』2010(協同総合研究所、二〇一〇年六月)
(三) 安藤聡「進化と退化の神話——The Water Babies 論——」、『言語と文化』第五号(愛知大学語学教育研究室、二〇〇一年七月)

白十字の会・定期読書会

2017年度も継続開催!!

キリスト教社会主義×ヘーゲル左派
キリスト教文学、社会評論
etc...

毎月1回、土曜日を予定
会場は都内喫茶店

主催：白十字キリスト教社会主義研究会

だが、その執筆の過程にあつて、自分自身の無知を痛感した。政治状況はもちろん、福岡在住で、東京の地理にも疎く、詳細なディテールを書き込めなかった。大学図書館で新聞(全国五大紙)を読み、TVニュースを分析して、自分なりの視座を模索した。その帰結が現在のスタンスである。正誤の判断は措いて、学びつづけた。

告知

ドストエフスキー読書会

(第3回 白十字の会・定期読書会：キリスト教文学、社会評論)

テキスト：ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』
(新潮文庫)

【プログラム】

開会
倉井香茅哉「キリスト教社会主義概論3」
参加者一同「ドストエフスキー読書会」
休憩
質疑応答、議論、問題提起
閉会

(全体で2~3時間程度を予定)

【その他、参考図書】

イマヌエル・カントの信仰的著作
ヘーゲル『キリスト教の精神とその運命』
ダーフィット・シュトラウス『イエスの生涯』
フォイエルバッハ『キリスト教の本質』
マルクス『資本論』
カール・バルト、パウル・ティリッヒの各著作
19世紀英国における産業革命とキリスト教社会主義
『新紀元』同人、賀川豊彦らのキリスト教社会主義
内村鑑三、無教会の伝道者たち
その他
(順不同)

日時：2017年4月29日(土) 14時~17時

(途中入退室可。会場は一般の喫茶店ですので、ご都合のよい時間帯にお越し下さい。)

場所：都内喫茶店を予定

※ 今回は、四ツ谷界隈の喫茶店／ファミリーレストランでの開催を予定しております。
詳細は、書記長の倉井(独立系研究者)から参加希望者の皆様へ個別に連絡いたします。

※本読書会は、学術的関心に基づく有志の集まりです。主催団体名に「キリスト教
社会主義」と銘打っておりますが、「信仰の有無・教派の別」等は一切問いません。

主催：白十字キリスト教社会主義研究会